



石城郡内の現在米

一三三三三石七斗増

平市の激増に郡部の少量減

現状の儘で二ヶ月充分

石城郡下に於ける今九月一日の現在米は平市七千八百七十五石八斗(前年同期の現在米より一三三三三石七斗増)郡部四萬二千三百一石(前年より六〇石七斗減)合計五萬百七十六石八斗(二六三石増)で在郡別を上げれば左記の如く

▲郡部在米、内地米類二二九七三石三(三二五石八減)立米一三六七一石三(七七一石減)白米四九二六石六(六五一石八増)計四一五七(一五二四)四石九減(台端米立七三三石八(三四五石四増)白米一六石(一石二減)計七二九石八(三三四増)計四二三〇一石(六〇七石減)以上

▲平市在米、内地米類一三六六石(一三八石八斗減)同立米五九四七石(一〇三三

五圓の種子が卅圓

其れでも入手困難

全国的の不作に玉葱種の昂騰

播種期に直前當業の當惑

石城郡の玉葱は大正の中頃から漸く栽培に氣込まれたものとして、地方消費の幾割でもなく毎年を延べて双葉七町歩、相馬十町歩の栽培を見てゐるが、六月頃から九州産と十月下旬からの北海道の移し移入を見ているので、年々栽培面積を増加されつゝあるに對し、種子の全部を和歌山、大阪、石川等の産地から購入するに對し、新濁方面より一升五圓内外で

濱通木炭の價格落

同業組合が出縣陳情

本縣産の定額を望んで

濱通り木炭同業組合では製炭技術の進歩から近年益際増上を上げつゝあるが此の程決定された中央物價委員に於ける標準價を現在取引されつゝある相場より一俵に付き十錢安とされたため増産奨励の折衝著しく當業の氣力を落し早川組、合長並に幹部今野、江尻等陳情をなすことになつた

石城梨の總收穫高

百六十四萬五千貫

移出は毎年六十萬貫以上

全收價格四十六萬圓

石城梨は昨報の如く收穫盛期に見込まれてゐるが豫想値は四に近づき中央市場へ初荷一車、賣目詰一箱一圓七、八十錢内を送つたが仕切り値が不明のため、郡農會から内田書記上京を依頼し、調査中である梨の本年作柄は良好で三分方の増收を

ガブナーは支配者、統治者、總じて親方または親類、發動機の上で調音(同調運動)の上で手ずる遠心力を利用して調節する。機械カブリエはダンスで女性に對する相手の紳士

能であるのと桑園の整理等から近年順々に栽培を増加し二平平均と見て總額に四十六萬圓に上るものゝ如くである

戦地上陸以來無事

各地の戦に参加

平市大町出身 川村 武義
 中野御上候、其の後、御無沙汰いたしました、御用掛願、私も上陸以來無事各地の戦に参加し軍務に従事致し居りますから御安心下さい、昨日(七月十八日)皆々様の真心こめたる慰問袋を戴き我々一同内地の珍らしき品々十月ぶりに御馳走様になりました

進軍の曲を奏でつ

平市紺屋町出身 圓谷 定一

前略、過日は慰問袋有がた、感謝いたし居り候、本日多数の出迎ひであつたが村野は来る十八日頃になる模様である

中堅農講生の現地講習

石城郡農會の中堅農講生

七日午前九時小名濱町役場集合で柴田技手引率立水産試験場、日本食料小名濱工場、測候所等を視察の現地講習をなす

双葉中堅農講生の石城郡見學

石城郡視察の双葉郡農會

石城郡視察の双葉郡農會は、十二日自轉車を連ねて來郡を視察當日夜平市駅前通り小野新と藤田屋に分宿十三日歸郷の途上午七時半神谷村の縣農試分場を見學同地講習

五百圓の手切金
 同棲廿日間
 同棲廿日間、平市市役所五三に飲食店カキ萬主人新沼市住吉町生れ伊藤孝三郎(四三)は内線妻山本よしの(三九)と共に相當の營業成績を上げてゐたところ昨十二月六月突然郷里から本妻に訪ねられよしのを別居させてゐたがよしのが知り合ふ目下高館市辨天町高館劇場内遊藝人(金澤市大町生れ)秋村頼正が獨身であるのを見て取り五百圓の手切金を出せば女を呉れてやるよしのと共謀し秋村から五百圓を收受と同時に同入等を同棲させたが僅か廿日間ばかりで女が逃走し孝三郎も當年七才の子供を伴れて行方不明となつたが石城の平市地方に潜伏し居る模様だと今十四日平署に捜索方を願出た

無断家出人の該當者なし

栃木縣鹽屋郡藤原町小佐越

三三沼尾伊三郎(四三)は昭和十一年十一月無断家出行方不明となつてゐたところ最近石城郡湯本町八八入山炭礦に働いてゐる噂があると實父春吉から平等に捜索方の願出であり同方面を調査したが該當者がなかつた

毛布二枚の献納

平市才地小路阿部ことさんと

平市才地小路阿部ことさんと同町の秋野信良氏は各毛布一枚を献納方今十四日市役所に寄託す

公會堂委員會

平市公會堂委員會は明十五日

午前十時から開かれるが構内諸物の除去と樹木の移植につき協議をなす

半島人ご手を携へて行方不明

宮城縣名取郡中田村字町一六

今朝松次女今野たけよ(三九)は昭和十一年二月半島人石山一郎の内縁妻となり出稼ぎに出で平市七軒町一八に居住勞動して居る旨昨年三月頃迄音信あつたが其の後手紙もなく行方不明となりたるも當年七十五才の今朝松は病氣危篤であるからと今十四日平署に捜索方を願出た

一丁目に晝小火

平市内一丁目仙台屋呉服店脇

平市内一丁目仙台屋呉服店脇の空地から昨十三日午前十時頃發火折柄活動中の防護團員が發見消止めたので大事に至らなかつたが原因は焚火の傍らに油桶が置き其の點火から附近の鮑厩に延焼したものと

産業革命

戦時國策の

下駄時代(下)

従来の物から竹でもボブラでも造る

竹製の下駄に成功したる板本氏は朗らかに語る、やつと苦心に酬えられまし、桐や其の他の材料は一年毎と云ふ譯にはゆきませんが竹は無盡蔵です、経費の安い點と丈夫な點は恐らく下駄中のナンバーワンでせう、

次へで北海道では同地の情藩の一つとして忘れられることの出來ぬボブラの並木のボブラが戦時國策の第一線に乗り出して下駄材として颯爽と登場し「ボブラ下駄」がデパートの賣場や廢物店の店頭を現はしてゐる、是近木材統制の餘波を受け桐、楡、せうし、柳等の下駄材が不足となり殊に楡の如きはマツチの軸木やベニヤ板の材料となるので價格は五割近くも暴騰してゐるのに反しボブラは時や歌には缺はれるが木材としては殆んど使途がなく無用の珍物視されてゐた、これに着目した札幌市の廢物製造業田徳太郎氏は下駄材として研究を重ねた結果意外の成功を得たもので最初はボブラ下駄など小賣業者が、振り向きもされなかつたが最近ではボブラでなく、はと大持での有様で今度ボブラ材の不足を來たしそりなので田徳氏は此の程積極的殖産部課に對し用材ボブラの殖産奨励方を陳情するまでになつた、

桐や楡が下駄材として使用出來る迄には廿年の年數を

經たぬばならぬがボブラは十二年で立派に使へる一方防風林ともなり郷土美化の上からも理想的とされてゐる(完)

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三三 用命は 三三三 平市 田町

正確な体温計
寒暖計
計量器指定販賣
平市五丁目角
山野邊藥局

品名	目録	品名	目録
月カツレツ	チキン	火ホーク	カツ
水エビ	ハヤシ	ホーク	カツ
木メンチ	オム	金コロケ	オム
土ビーフ	オム	土ビーフ	オム
日ランチ	オム	日ランチ	オム
日ランチ	オム	日ランチ	オム

外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科
晝夜 北川外科
診察 北川外科
〔血液検査毎日〕
平市新川町二七(電四六四)
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保
入院デキマス

債券公債 兩替 金融
多田井質店
平市大町
電話五九一

食 事
酒 肴
サロシ
町田平 二五三電

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ
平市南町
電話二二三

根本産婦人科醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四四番
(入院隨時)

御婦人用 御子様用
陳列
簡單衣
豐富
ツルヤ 平電一四〇

平病院 (平市元共濟病院跡)
院長 醫學博士 鈴木定藏
副院長 高橋俊幸
小兒科 鈴木定藏
皮膚泌尿科 鈴木定藏
物理療法科 鈴木定藏
藥劑科 鈴木定藏
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の限にあらず)

靴の修理は「革の素」で
〔専賣特許〕
定價 小40 中60 大70
皮革材料品證の所靴靴はお履き捨てにならずに革の素にて御修理下さい、御使用法は至つて簡單で誰にでも容易で在來の革より數倍勝る耐久力が有ります、其の他、スリッパ、草履、ゴム製品、下駄等萬能接合劑として重寶、是非一度御試し下さる様
製造元 東京 昭和理化學研究所
特約店 平市大町 山野邊セメテ五工業所

和洋銅鐵、金物問屋
店商屋益
九九・九電

新時代の要求
附屬事業に等外看護婦を特設いたし皆様の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します
平市南町 平看護婦會
電話三〇七
御手不足の御家庭
輕い御病人の付添
妊産婦の御家庭